

ヨーロッパの初穂

2023年1月8日

使徒の働き 16章11～15節 (15章36節～ 第二次伝道旅行)
ガラテヤ書 2章11～14節

序：パウロの第二次伝道旅行

- (1) パルナバと同行するつもりだったが、たもとを別つことになった
理由：①マルコを同行させるかどうかで意見が合わなかった
②ガラテヤ 2・13 パウロ VS ケファ (ペテロ)
異邦人との交わりにおける態度に一貫性がないと叱責
ペテロの語ることが間違いだから抗議したのではない
ペテロに同調する者の一人がパルナバ
- (2) パルナバとマルコ、パウロとシラスの二組の伝道チームに分かれ、別々に行動
- (3) パウロとシラスは、パウロが第一次伝道旅行で宣教した小アジアのガラテヤの地域を問安するため、シリアのアンティオキアを出発 (主の恵み+教会の祈り)
デルベ → リステラ → イコニオン → フリュギア → アジア →
テモテが加わる
ユダヤ婦人の母・ギリシャ人の父
評判のよい若い信仰者
今後の宣教上の理由で割礼を受けさせた
テモテが実質的にユダヤ人であることの証明→ユダヤ人対策

エルサレム会議で決定したことを、諸教会に伝達
⇒ 諸教会の信仰が強められ、人数が増した

I. 大きな転機：福音がアジア ⇒ ヨーロッパ大陸へ 16・6～10

(1) 神の導き

使徒たちはアジアでまだ未伝の地に福音を宣教しようと考えていた

- ① 聖霊 (イエスの御霊) は、彼らが向かおうとしたアジアの地域 (ガラテヤ フリュギアを通り、ミシアから北上してビティニアへ進む) での活動を禁じた (禁じたのは福音を語ることではなく、アジアで語ること)

- ② ミシアを通して トロアス に下った
エーゲ海に面したアジアの最西端の港町

- ③ マケドニア人 (対岸のギリシャ北部) の幻
渡ってきて助けてくれるよう懇願

(2) パウロー行の応答

- ① 「彼ら」 → 「私たち」
トロアスでルカが一行に加わる

- ② 「ただちに」 マケドニアに出発

- ③ 神の召し・神の目的に対する確信
私たちがマケドニアに招いて福音を宣べさせるのだ
コリント I 15・1～8
贖罪の死 (十字架)
葬り
復活

II. ピリピでの宣教

(1) トロアスから海路対岸のサモトラケへ ⇒ 翌日ネアポリス ⇒ ピリピ
15 km

(2) ピリピという町

金山の鉱業で繁栄 軍事・通商の要地 マケドニア地方で第一の都市
マケドニアの王フィリッポス ⇒ ローマ皇帝オクタヴィアヌスが統治
ローマの植民都市 (免税・ローマ市民権)

(3) 安息日

① ユダヤ人の会堂がない ⇒ 礼拝が行われていそうな場所は川辺の祈り場

② 集ってきたのは女性たち

III. ヨーロッパの初穂、(最初の回心者) リディア

(1) ティアティラ市の紫布の商人 = 裕福な女性実業家
黙 2:18~29 貝から採取した染料、顧客は上層
羊皮紙、羊毛、染織、皮細工、陶器など製造業

(2) 神を敬う

心の準備ができていた 神を求めていた 整えられた魂

(3) 主がリディアの心を開いてくださった

神を信じるまでは、人は自分で自分の心を開くことができない

(4) パウロの語ることに心を留めるようにされた

福音 神の すくいを求め信じた
御霊が働いてくださった
信仰告白

(5) 家族に (家族・使用人) も、福音を聞かせた

語るパウロたちを紹介
イエスを信じ、受け入れた

(6) 信仰のしるし、バプテスマを受けた

(7) 奉仕・聖徒 (神の家族) の交わり

旅人を迎えて、もてなす (宿泊、食事) ⇒ 協力者・同労者となる

IV. 結び

(1) 福音宣教を主導されるのは、聖霊 (時、場所、人)

伝える側 (宣教者 同労者)
受ける側 (心を備えられる/求め)

(2) 伝える人の信仰による応答 (聖霊の指導に聞き従う)

(3) 罪人の救いに関わられる神の聖定

選ぶ + 恵み + 信仰 = 救い
父なる神 御子イエス・キリスト 聖霊

三位一体の神の御業

(4) 人の主な目的: 神の栄光を現し、永遠に神を喜ぶこと (Westminster 教理問答)

① 新しく生まれる 新生
② 主に似る者へと成長 聖化
③ 救いの完成 栄化